

# 教団新報

定 価 1 部 140 円 (本体 133 円 千共 200 円)  
予約購読料 1 年 分 共 5,000 円  
紙代のみ 3,500 円  
振替 00140-9-145275  
本紙を購読ご希望の方は、前金を  
そえて、お近くのキリスト教書店  
へお申し込み下さい。  
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日 本 基 督 教 団  
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18  
日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546  
FAX 03(3207)3918  
発行人 内 藤 留 幸  
編集主筆 竹 澤 知 代 志  
印刷所 株式会社きかんし



キリスト教と関係の深い軽井沢の地に青年ら 270 名が集まって

## 全国教会中高生・青年大会 軽井沢に270名が集められ

8 月 21〜23 日、全国教会中高生・青年大会が、教団内の有志青年伝道団体を結集して、主題「日本伝道のために」召命と派遣」(ローマ 12 章 1 節)のもと、恵みシャレー軽井沢を会場に開催された。

この大会は 5 年後の 2017 年に宗教改革 500 年を記念する青年大会開催を見据え、そのブレ集会として位置付けられ、日本伝道の幻に仕えるため、次代の教会を担う若き器が育てられ、伝道者が起されることを願うものである。

参加運動体は、北海道青年修養会、全国教会青年同盟、全国連合長老会、改革長老教会協議会、北陸伝道会、福音主義教会連合関西部会、西日本教会青年同盟

### 5 年後の宗教改革 500 年を見据え

日本伝道会九州、沖縄キリスト伝道会、CASA JAPAN があった。また教団教育委員会のプログラムであるユースミッションがプログラムに合流、同委員会と伝道方策検討委員会の後援を受けた。北海道から沖縄まで全国 90 教会から中学生 31 名、高校生 40 名、青年 13 2 名、加えて韓国から 6 名、台湾から 7 名、講師・教職・引率者を含め総勢 270 名が主に召し集められた。

講演と分団は中高生と青年に分かれ、礼拝と夜のプログラムは全体で行われた。

1 日目、開会礼拝で大住雄一東京神学大学教授が「神の前に」(マタイ 28 章 16〜20 節)と題して説教、大会主題の意味と姿勢を示した。夜には森祐理氏(クリスチャンアーティスト)の特別コンサートを通し、キリストに生かされている喜びを確認し、讃美するひとときとなった。森氏の証しと讃美に心打たれ、涙する者も多かった。

2 日目には東日本大震災被災を覚えての祈り会が、左近豊聖学院大学准教授の司式・奨励により行われ、山元克之花巻教会牧師、上竹裕子磐城教会牧師、渡邊学医師(聖ヶ丘教会員)より被災地報告がなされた。

午後の自由時間は、軽井沢の地を散策しつつ、交わりを深めるときをもった。そして夜の証しと讃美の集いでは、台湾と日本から証し者が立てられ、3 か国語

の讃美と踊りで盛り上がった。会の冒頭では、石橋秀雄教団総会議長が藤盛勇紀総務幹事と共に登壇、「皆さんに教団の未来と希望がある」と激励の言葉を語り、また会の最後には参加教職全員のコーラスにより讃美がさげられた。

### 日本伝道のために「召命と派遣」

青年プログラムでは、「日本伝道のために」召命と派遣」と題して、近藤勝彦東京神学大学学長の講演があった。以下、要旨。

青年時代に父を亡くし、「死よりも確かなもの」はないのかとの問いを抱き、教会の門を叩いた。教会の交わりの中で、次第にイエス・キリストを救い主と信じるようになる。それは、キリストにより示された神

### 神さまはありのままの私たちを

高橋貞二郎牧師による、中高生グループの講演は 2 回に分けて行われた。第 1 回目の全体テーマは「神様は、ありのままの私たちを愛してくださっている」。以下、講演をテーマ別に順を追って要約する。

①聖書は神様からのラブレター：イザヤ書 43 章 4 節「わたしの目にあなたは価高く、貴く／わたしはあなたを愛し」を挙げ、ラブレターに関する自身の体

3 日目、聖別会では、一人ひとりが、大会で得た恵み分かち合い、受洗の決意、伝道献身の決意など、新しい献身の決意に満ち溢れたときとなった。プログラムを締め括る派遣礼拝で、今大会チャプレンの小倉義明使徒教会牧師が「沖へ漕ぎ出せ」(ルカ 5 章 1〜11 節)と題して説教。この大会を通して、主が、不信

仰な者たちに網が破れるほ入ひとりが、大会で得た恵み分かち合い、受洗の決意、伝道献身の決意など、新しい献身の決意に満ち溢れたときとなった。プログラムを締め括る派遣礼拝で、今大会チャプレンの小倉義明使徒教会牧師が「沖へ漕ぎ出せ」(ルカ 5 章 1〜11 節)と題して説教。この大会を通して、主が、不信

を図る社会を生み、利己主義欲望の拡大をもたらす。対して、神の召しは、勤勉、独特な倫理を生む。神の御栄えを表すために、自己のエネルギーの浪費を抑えて行くアスケーズ(禁欲)の生活がある。それは、信仰者の新しい交わり、召命共同体を生む。伝道は礼拝共同体を形成することに他ならない。

も民族主義とも異なったレベルで生きて行くために、「天に本国を持つ者たち」がいなくてはならない。天の本国の香りがする大使館をこの世に建設すべく、御言葉と聖礼典によって礼拝と牧会に仕える牧師が起ることが重要である。他の仕事も無意味ではないが、それが真に意味があるものと言いつけるためには、根本的な意味を与える源泉との結びつき、キリストと神の国との結びつきが

の愛から、私たちを引き離すことが出来るものは何一つないという恵みの真実を受け止めることであった。この救いに与った者は、神の召しを受け止める者となる。「自分探し」、「自己実現」ということが言われるが、自分で自分を見つめても自分を知ることとは出来ない。神を知り、神に知られた自分を知り、神の召しを知ることにより、私たちが

は、自分が何者で、何をなすべきかを知る。そして、神の召しを知らされて歩む者は、他者を羨む必要も、自分を憐れむ必要もなくなる。主の召しを受け止め、神の国を伝えるために遣わされて行くところに、健やかな歩みが生まれる。

現代日本の「不道德な社会」の背後には、召しの喪失がある。召しの喪失は、他者との競争に訴えて効率

を図る社会を生み、利己主義欲望の拡大をもたらす。対して、神の召しは、勤勉、独特な倫理を生む。神の御栄えを表すために、自己のエネルギーの浪費を抑えて行くアスケーズ(禁欲)の生活がある。それは、信仰者の新しい交わり、召命共同体を生む。伝道は礼拝共同体を形成することに他ならない。



2 日目夜、証しと讃美の集い、讃美に合わせて壇上で踊る台湾からの参加者と岸憲秀教育委員長

験を語りつつ、神様の愛を知るには聖書を神様からのラブレターとして読むのが大切。

②神様が愛されるとは、好き嫌いという感情的な意味ではなく、ありのままの私たちを大切にしてください。神の愛を日本に語るとき、最初は仏教という煩惱を表す「愛」ではなく「御大切」と訳したというエピソードが、神の愛の性質を語っている。

③共にいて守ってください。神様。④私たちが成長させてくださる神様。：瞬きの詩人、水野源三氏を紹介しつつ、私たちが共にする神様は、時に私たちに困難をお与えになるけれど、それは単なる困難ではなく、私たちの成長にとって神様が必要だとお考え故であり、困難を乗り越える力を神様は私たちに与えてくださり、何よりも、共にその困難を乗り越えてくださるお方だ。

⑤私たちの終わりはハッピーエンド：神様と共なる人生は、天国という私たちの本国に向かう人生であり、それはハッピーエンドなのだ。

第 2 回目の講演は、全体テーマを「神様は、福音を伝えるために私たちを招かれた」としてなされた。

①教会は、イエス・キリストを信じる者の集い、団体：教会とは建物としての教会を指すのではなく、神様を礼拝するために集まっている人たちの集団を指すのだ。

②あなたはイエス様へ選ばれ、教会へ招かれた。③私たちは福音を伝えるために招かれた：一人ひとりが、教会に通うようになったきっかけは様々だろうが、その背後には、神様、イエス様が一人ひとりを選び、教会へ招いているという働きがある。一人ひとりが教会に招かれているのは、神の愛の究極のしるしであるイエス・キリストの十字架と復活を伝えるためである。

最後にまとめとして、神

様は、私たちを信頼して日本全国、そして世界へと送られる、と神さまによる一人ひとりの派遣を語り、講演を閉じた。

日頃キリスト教主義学校という現場で中高生と深く関わる講師の講演は、中高生に分かりやすく、時にユニークな交えながら、中高生の心に深く届いた講演であった。中高生青年大会の思い出として、2 回の講演が印象的だったと語る中学生が多かったことを最後に報告させていた。

(小林信人報)





アジア学院…建物が壊滅、農地も放射能被害を受けたが、回復へ向け着実に

## 復興の足音が聞こえてきます 支援ニュース・関東教区現況報告

### 教会の宣教の将来を考えながら 東日本大震災から一年半を経て

東日本大震災から一年半を経過して、関東教区では被害を受けた会堂・牧師館や、幼稚園・保育園などの復興計画が、当初の戸惑いとショックから立ち上がって、着々と進んでいます。

大きな被害のあった教会は、古い会堂を壊して建て替え新築を決意しました。設計者を決め、どのような教会にするのか、それぞれの教会の宣教の将来を考えながら基本設計の構想をまとめているところです。

今年度中に建設に取り掛かる予定の水戸中央教会、来年のクリスマスは新会堂で祝いたいと願っている宇都宮教会、無牧となった伊勢崎教会は長老会を中心に

新会堂を建設する決意を固めました。それぞれの教会の新築計画は、1億円に近い金額を要しますので、その資金計画の作成には大きな決意を迫られています。

教団「被災教会支援金配分要綱」に従って、申請額の50%を支援金に、後の50%を上限とした貸出金にするという原則が立てられています。これを基準に、それぞれに知恵を絞って、祈りを合わせて資金計画を取り組んでいます。

とりあえず、建築に取り掛かるための資金は保証されていますが、支援金の比率が60%、70%へと、募金が増えることによって、加算されることになれば、さらに安心してそれぞれの教会の将来の宣教ヴィジョンを実現してゆけることができます。

比較的小さな被害を受けた教会は、ほぼ改修を終わって平常の礼拝と教会の活動が回復しています。

桐生東部教会もしばらく牧師家族は牧師館を出てアパート暮らしを余儀なくされていますが、6月には牧師館に戻ることができました。

地震による建物の壊滅と農地の放射能汚染とで大きな打撃を受けたアジア学院は、除染や放射能値の測定や放射能に汚染され難い作

物の開発など地域に先駆けで取り組み、また9月にはコイノニア棟の完成感謝礼拝と着実に回復に向かっていきます。

栃木、茨城、群馬などの幼稚園・保育園のある教会は、建物の補修のみならず放射能の除染も緊急の課題となり、子どもの安全と命に関わりますので、放置できず、多大な資金確保に苦慮しました。

さらに、被災地からの園児受け入れ、退園児が相次ぎ、継続的にボランティア派遣

ぐことによる経営悪化などの問題がありました。これも教団の支援体制が整ってき、少し息をついていくところ。海外の教会からの支援も含めて、支えられています。

関東教区は、これまでも埼玉や新潟地区を中心に東北、奥羽の被災地への物資の支援やボランティアの派遣を行ってきました。

今年7月より教区として継続的にボランティア派遣

を実施し、仙台と石巻のEMOの働きに加わっています。

参加した人たちが、台湾や韓国の教会から来たボランティアの積極的な働きに刺激を受けたり、被災した人たちの前向きの生き方に励ましを受けたり、そのような悲しみを共有することから生じる心の交流が生まれてきています。

これらの動きをさらに加速させるために、被災地をめぐるバス・ツアーを計画しているところです。全国の教区、地区、教会の方々の祈りと支援に心から感謝しています。

秋山 徹  
(関東教区総会議長)

### 救援献金6億円を超える 教団救援対策本部第14回会議

8月6日、教団会議室にて、教団救援対策本部第14回会議を開催した。

まず、7月31日現在の国内募金総額が3億8,456万2,600円、海外からの献金が2億2,847万6,685円と報告された。

次に救援対策室から、会堂及び牧師館建築資金貸付申請書の記載内容を検討したこと、石巻工場の専従者を決定(飯野久美子氏)したこと、神奈川教区からの福島の子どものための保護プログラムの企画・提案の取扱いについて確認したこと等が報告された。

また、奥羽、東北、関東の3教区における被災教会の近況や支援活動の現状等について、文書によって報告を受けた。

審議事項においては、救援対策担当幹事として新たに飯島信氏を選出し、常議員会において承認を得ることとした。なお、委員からは、飯島氏には早急に加藤誠幹事からの引き継ぎをしてほしい、教団の支援活動の現地に行き顔合わせをすることが必要であるといった意見が出された。

また、救援対策室会議で検討された「会堂及び牧師館建築資金貸付申請書」および「会堂及び牧師館建築資金貸付契約書」の内容変更について協議し、確定した。

継続的にボランティア派遣

また、懸案となっているアジア学院からの支援依頼については、今後の支援計画の全体像を検討した上で、次回会議で扱うこととした。

次回会議は、8月24日、教団会議室にて開催する。

(雲然俊美報)

いよいよ具体的な支援要請にいかに対応するか、重さを増す対策本部の働き

また、懸案となっているアジア学院からの支援依頼については、今後の支援計画の全体像を検討した上で、次回会議で扱うこととした。

次回会議は、8月24日、教団会議室にて開催する。

(雲然俊美報)

いよいよ具体的な支援要請にいかに対応するか、重さを増す対策本部の働き

また、懸案となっているアジア学院からの支援依頼については、今後の支援計画の全体像を検討した上で、次回会議で扱うこととした。



アジア学院…コイノニア・ハウス、9月に新しい建物が完成予定



いよいよ具体的な支援要請にいかに対応するか、重さを増す対策本部の働き

共に祈り、支えよう！

Let us pray for and support people and the Church together!

#### 「東日本大震災救援募金のお願い」

教会の再建・補修、地域の復興・支援に向けての具体的な取り組みを日本基督教団として支援していくため、祈りと共に「東日本大震災救援募金」にご協力を下さいますよう、お願い申し上げます。

記

目標額 10億円(国内のみ)  
期間 2011年7月1日～2015年3月31日  
振替番号 00110-6-639331  
加入者名 日本基督教団東日本大震災救援募金  
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-31  
2012年9月

教団救援対策本部長 石橋秀雄

#### 荒野の詩

▼詩人金子光晴は言った。「本当に感動させる(ための)説教、(たのめ)を補った方が、穏いと思うな。▼詩人リルケは『若き詩人』に次のようなことを言った。良い詩をいかに書くかと考える前に、本当に書かなくてはならないものがあるのかを見詰めるな。▼深く感動させられた金子光晴の詩は、一つや二つではない。▼彼の信仰については何も知らないが、この言葉は、私たちが祈りに全く当て嵌まるように思う。「本当に祈りたいと思うならば、良感動させる説教を」と悩む以前に、どうにかして祈りをしてはならないのか、現実に汲みを埋めることに汲み

▼詩人金子光晴は言った。「本当に感動させる(ための)説教、(たのめ)を補った方が、穏いと思うな。▼詩人リルケは『若き詩人』に次のようなことを言った。良い詩をいかに書くかと考える前に、本当に書かなくてはならないものがあるのかを見詰めるな。▼深く感動させられた金子光晴の詩は、一つや二つではない。▼彼の信仰については何も知らないが、この言葉は、私たちが祈りに全く当て嵌まるように思う。「本当に祈りたいと思うならば、良感動させる説教を」と悩む以前に、どうにかして祈りをしてはならないのか、現実に汲みを埋めることに汲み









上から、毎夕の報告会、祈  
全員手をつないでの大宮教  
会、調理場で働く大宮教  
会婦人会、下は、左から、  
会、エマオ専任牧師、柴  
藤真史、エマオ教会、柴  
高橋爾清水、エマオ教会、  
田師、山本師

# ボーイスカウトが教会を宿として

## ある日の仙台エマオ

ボーイスカウトの一行が、8月16日から3日間、仙台エマオを拠点にボランティア活動を行うという情報を聞きつけて、取材に向かった。参加したのは、ボーイスカウト町田13団、ローバー隊と呼ばれる大学生が14名、指導者が3名の計17名。荒浜の笹新田地区で、主に民家の庭や畑地の整備を行った。

い、感想や反省が述べられていく。仮設住宅地でのラジオ体操や、その地の住民との触れ合いの場である『お茶っこ』の様子も報告された。一様に、困難な中にも喜び・充実感を味わっていることが伝わって来た。

て来たが、喜び一杯で帰る、「機会があったらまた来たいと思います」、「私は必ず来ます」、「またエマオで会いましょう」と感想を語る。「あなたたちがいたから、ここに留まったんだ」という言葉を貰って来たことも報告された。

になった。しかも、帰路、大雨に降られ、びしょ濡れでエマオに辿り着くという惨憺たる様だった。

夏休み、それもお盆の最中とあって、宿は当初予定していたエマオからも遠くない教会ではなくて、大分離れた教会になった。往復に時間が割かれる。



真船 禎さん

### 主のために



1933年、東京生まれ。演出家（日本映画監督協会）。麻布南部坂教会員。

思い出深い作品のひとつに、市川森一氏の脚本によって監督として手がけた、帰ってきたウルトラマンシリーズ「悪魔と天使の間に」がある。ウルトラマンファンの間でも傑作に挙げられる作品である。

たのは、幼いときよりキリスト教に触れてきたことで培われたものによってであろう。

に關する映像作製には心が大きく動かされた。市川氏との仕事もそのひとつだった。

真船さんは、市川氏がキリスト者であることを公にして、この業界で仕事を続けてきたことを尊敬してきた。真船さんが演出した作品の多くは自身がまだキリスト者となる以前に手がけたものだった。この「悪魔と天使の間に」もそうだった。しかし、市川氏がこの作品に込めたキリスト教的メッセージを強く捉えることができた。

小児結核を患ったことで、小学校2年生から、神奈川・茅ヶ崎の全寮制の白十字会林間学校に入り、寮から施設内の小学校に通った。教員、寮母は皆キリスト者だった。終戦を迎え小学校卒業後は自由学園に入学。高校1年生まで同じように寮生活をして通学した。残りの高校生活を関東学院に送った。小学校から10年以上に亘ってキリスト教学校に過ごしたことは決して小さなことではない。

後に伝道者として献身する友人を紹介して教会と出会い、洗礼の恵みに浴した。72歳で教会につなげられるまで長い時間を要した。このときには演出家としての大方の仕事はすでに終わっていた。もっと早くキリスト者としてこの世界で働いていたらどうであったであろうか、との思いもある。だが、この時だった。アナトール・フランスが描いた曲芸師に思いが重なる。映像の世界の一線からは退いたが、ここに至って、主のためにという思いはいよいよ深い。

ちよつと堅苦しい話で恐縮ですが、日本基督教団は主キリストより託された権能行使にふさわしい秩序（法）を教憲・教規としてもっています。その教規の第2章は教務機関についての規則です。39条から始まり、まず教団総会議長の総括行為。次いで40条、49条には常設委員会・特設委員会規定となり、50条に総幹事規定が述べられています。更に総幹事の所轄のもとに置かれた出版局、年金局、部落解放センター、などの業務機関や宣教研究所に関する規則が51条、57条まで続いています。

ここで明らかなように、教団総会議長が教団を代表し、審議・決議機関（教団総会・常議員会など）の最高責任者であるのに対して、総幹事はその決議機関での決定事項を実施する執行機関の責任者なのです。要するに総幹事は教団の教務と事務のすべてを円滑に遂行する大切な使命をもっているのです。その中には海外のキリスト教会や諸団体との協力推進も含まれます。

### 総幹事の務めってなあに

年金局・部落解放センターで重要な職務を分担して働いている幹事や職員たちにも配慮し、教団の宣教の一翼を担っているとの自覚を深めてもらうよう努めました。東日本大震災救援には特に気を引き締めて取り組んできました。お祈り感謝。

（教団総幹事 内藤留幸）